

活用ナビ

①【ねらい】日本でこれまで発生した自然災害から学習問題を考える。

②● 題を読みましょう。どのような自然災害が書かれているでしょうか。
何年おきの表ですか。

※題の「大きな」という部分に注意したい。

②● 大きな地震と津波の発生について気づいたことを書きましょう。
※100年前から大きな地震が起き続けていること、大きな津波も20年に1回は起きていることをおさえたい。

②● 大きな台風と大雨の発生について気づいたことを書きましょう。
※ここ20年は減っているが、天気予報により対策が進んでいることの効果も伝えたい。

②● その他で気づいたことを書きましょう。

③● 今後自然災害はどれぐらい発生すると考えられるでしょうか。考えたことを書きましょう。資料②も参考にしましょう。
※今までも大きな自然災害は各地で起き続けていたこと、資料②から同じ場所で津波の被害があることから、対策の必要性を理解させる。

④● 自然災害と向き合っていくうえで調べたいことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

5年-19

5-1 自然災害とともに生きる
くり返す自然災害

P206～P207

名前

5年 組 番

①【ねらい】日本でこれまで発生した自然災害から学習問題を考える。

②【基本】資料②を読み取ろう。

・題を読もう。どのような自然災害が書かれているだろうか。何年おきだろうか。

・大きな地震と大きな津波の発生について気づいたことを書こう。

・大きな地震が起きていない期間もあるが、最近でも大きな地震が起きている。

・津波は数は多くはないが、20年に1度は起きている。

・ここに示されていない大きな地震もあると思う。

・大きな台風と大雨の発生について気づいたことを書こう。

・100年前から台風や大雨の自然災害がずっと続いている。

・1940年から80年が多い。最近では対策をとっているから少ないのかもしれない。

・台風や大雨は毎年ニュースになるので、やはり多い。

・その他で気づいたことを書こう。

・噴火は違う火山で起きている。

・大雪は多い年もあったが、最近では1度だけだ。温暖化が関係あるかもしれない。

・大雪や噴火はいつ起きるのかわからない。

③【ポイント】今後自然災害はどれぐらい発生すると考えられるだろうか。考えたことを書こう。(資料②も参考にしよう。)

・地震や津波、台風や大雨はこれからも日本の各地で毎年発生すると思う。

・大きな噴火や大雪は可能性は少ないかもしれないが発生する可能性がある。

・自然災害は日本では今後も起きると思って、対策をすることが必要だと思う。

④自然災害と向き合っていくうえで調べたいことを話し合い、学習問題をつくらう。

©社会科資料読解ワークシート開発プロジェクト（東北学院大学 佐藤正寿，教育出版株式会社，株式会社教育同人社）2020

資料の読解

この表は世界でも自然災害の多い国である日本の過去 100 年間の大きな自然災害の頻度を表したものである。題に「大きな自然災害」と書いているように歴史に残るような大災害と考えたい。たとえば 2000 年から 2020 年までも、東日本大震災以外にも多くの大きな地震があり、被害を受けた地域もあったがここには含まれていない。その点を子どもたちにも注意させる必要がある。

地震や津波、台風や大雨のそれぞれの頻度を見てわかるように、この 100 年間は大きな自然災害が起きた。最近になって情報通信技術が発達し、自然災害への対策も広がってきたが、それでも大きな自然災害は起きている。大雪や噴火についても数は多くはないが、ここ 40 年間では 20 年に 1 度は大きな自然災害起きていることがわかる。

以上の読み取りができることから、この資料は子どもたちに自然災害の対策の必要性を理解させるために適しているといえる。

読解の方法

- (1) 最初に題を確認するが、「大きな自然災害」であることを強調したい。地震や台風自体が発生していないわけではないことを理解させる。
- (2) 「地震・津波」、「台風・大雨」、「その他」の項目別に資料の読み取りをさせる。それぞれ大きな自然災害が 100 年間起き続けていることをおさえたい。
- (3) (2) を踏まえたうえで、今後も日本で大きな自然災害が起こる可能性を考えさせる。子どもたちは、今後も大きな自然災害がおきると予想するであろう。同時に、大きな自然災害のための対策が必要であることを理解させたい。
- (4) 今までの学習をもとに、これから調べたいこと考えさせ、学習問題を作らせる。